

p. 17

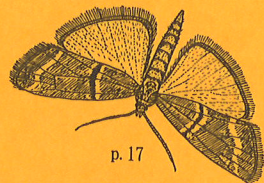


p. 17

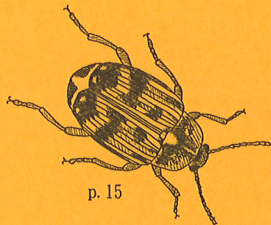
ミニガイド No. 9



p. 17



p. 17



p. 15



p. 7

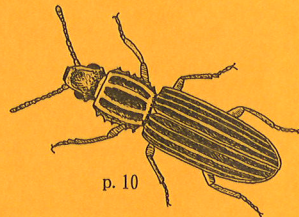


p. 5

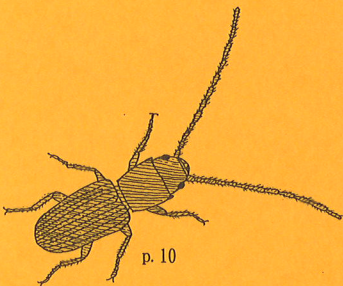


p. 15

家の中の虫



p. 10



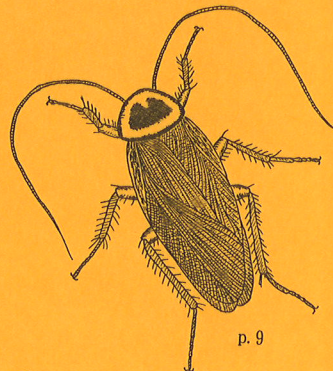
p. 10



p. 4

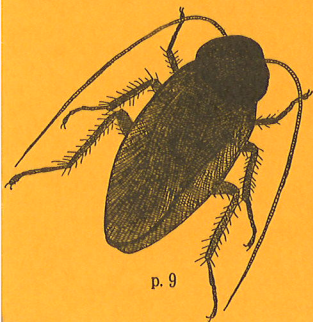


p. 9



p. 9

大阪市立自然史博物館



p. 9



p. 9



p. 9

参考にした本

- 朝比奈正二郎 1991. 日本産ゴキブリ類. 253p. 中山書店, 東京.
- 石井象二郎 1977. ゴキブリの話. 193p. 図鑑の北隆館.
- 梅谷献二・安富和男 1969. 毒虫の話. 235p. 北隆館.
- 笹川満廣監修 1976. 特殊衛生害虫—防除マニュアル. ナラマイシン研究会, 大阪.
- 篠永 哲 1975. 家庭昆虫園. 144p. 平凡社, 東京.
- 田中 梓 1974. 身近な小動物. 223p. 朝日新聞社, 大阪.
- 中條道夫 1982. しろあり以外の建築害虫(5) ナガシクイムシ科とヒラタキクイムシ科について. しろあり(50): 32-48.
- 富永 修 1988. クロゴキブリ属の絵解き検索. Nature Study 34(5): 2-3.
- 富永 修 1988. 大阪のゴキブリ類リストへの追加—トビイロゴキブリ. Nature Study 34(5): 2, 4.
- 日本家屋害虫学会編 1984. 家屋害虫. 325p. 井上書店, 東京.
- 日本ベストコントロール協会 1987. 原色ベストコントロール図説 第I集. 16lp+56項目.
- 安富和男・梅谷献二 1983. 衛生害虫と衣食住の害虫. 310p. 全国農村教育協会, 東京.
- 山野勝次 1969. 建築昆虫記. 286p. 相模書房, 東京.

ミニガイド No. 9 家の中の虫

編著：宮武頼夫

(大阪市立自然史博物館：昆虫研究室)

発行：1992年3月31日

大阪市立自然史博物館

〒546 大阪市東住吉区長居公園

1番23号 Tel. 06(697)6221

印刷：光荣堂印刷株式会社

ジンサンシバンムシ……………12, 13
 スジコナマダラメイガ……………16, 17
 スジマダラメイガ……………16, 17
 セイヨウシミ……………20
 センチニクバエ……………19
 ソラメゾウムシ……………15
 ダイコクシロアリ……………3
 タバコシバンムシ……………12, 13, 27, 29, 30
 チカイエカ……………24
 チビタケナガシンクイ……………5
 チャイロコメノゴミムシダマシ……………10, 11
 チャバネゴキブリ……………8, 9
 ツヅリガ (イッテンコクガ) ……16, 17
 トウゴウヤブカ……………24
 トコジラミ (ナンキンムシ) ……22, 23, 30
 トビイロゴキブリ……………8, 9
 ナガヒョウホンムシ……………14
 ナラヒラタキクイムシ……………5
 ナンキンムシ (トコジラミ) ……22, 23, 30
 ニセセマルヒョウホンムシ……………14

ネコノミ……………26, 27, 30
 ノコギリヒラタムシ……………10
 ノシメマダラメイガ……………16, 17
 バクガ……………16, 17
 ハラジロカツオブシムシ……………6, 7
 ヒトジラミ……………22, 29
 ヒトスジシマカ……………24, 25
 ヒトノミ……………26, 27, 30
 ヒメカツオブシムシ……………6, 7
 ヒメマルカツオブシムシ……………6, 7
 ヒラタキクイムシ……………5, 28
 ヒラタチャタテ……………18
 フルホンシバンムシ……………21
 ホシチョウバエ……………19
 マダラシミ……………20
 ヤマトゴキブリ……………8, 9
 ヤマトシミ……………20
 ヤマトシロアリ……………3, 4
 ヨツモンマメゾウムシ……………15
 ワモンゴキブリ……………8, 9

虫の種名の索引

アカイエカ	24, 25
アズキゾウムシ	15
アタマジラミ	22
アメリカカンザイシロアリ	3
イエシロアリ	3, 4, 28
イエバエ	18, 19, 29
イガ	6, 28
イヌノミ	26, 27, 30
エンドウゾウムシ	15
オオキモンノミバエ	19
オオクロバエ	19
オオクロヤブカ	24, 25
オオチョウバエ	19
オオナガシクイ	5
ガイマイゴミムシダマシ	11
カクムネヒラタムシ	10
カシノシマメイガ	16, 17
カツブシチャタテ	18
キイロショウジョウバエ	19

キョウトゴキブリ	8, 9
クシヒゲシバンムシ	21
クロアリガタバチ	27
クロゴキブリ	8, 9
ケオプスネズミノミ	26, 27
ケジラミ	22
コイガ	6
コガタアカイエカ	24, 25
コクガ	16, 17
コクゾウムシ	12, 13
コクヌスト	12
コクヌストモドキ	10, 11
ココクゾウムシ	12, 13
コチャタテ	18
コナチャタテ	18
コメノゴミムシダマシ	11
コメノシマメイガ	16
シナハマダラカ	24, 25
シバンムシアリガタバチ	27
ジュウタンガ	6

清潔な下着を身につけ、シラミがついている可能性があれば、熱湯で煮る。いずれも殺虫剤は0.4%フェノトリン粉剤。

- 11 トコジラミ一部屋ごと燻蒸する。かくれがの周辺に、殺虫剤（乳剤やゴキブリ用エアゾール）を吹き付ける。さされたら、抗ヒスタミン剤をぬる。
- 12 カ類一種類によって幼虫（ぼうふら）の発生する場所が異なるので、発生しやすい水たまりをできるだけなくする。アミ戸やエアカーテンなどで、家の中へカが入らないように気をつける。蚊取り線香や電気蚊取り器を使ったり、弱い殺虫剤を噴霧する。虫よけスプレーなどを体に吹き付けるのも効果がある。
- 13 ノミ類一ヒトノミやネコノミの場合は、畳の下や、じゅうたんの清掃、イヌノミ

では、犬小屋の清掃に気をつける。有機リン系の粉剤を撒いて、幼虫などを殺す。また、ペットには殺虫剤入りのシャンプーや、首輪などがあるので、獣医と相談して使用する。

- 14 アリガタバチ類一寄主となるシバンムシやカミキリムシなどが多数発生していることが多いので、発生源をつきとめ、処置することが大事。タバコシバンムシなどは、乾燥食品やドライフラワー、ペットフードなどにも発生するので注意を要する。時には殺虫剤の散布や、燻蒸によって処理することも必要である。

つちり閉まる容器を使う。また、古いものと新しいものを混ぜない。

(3)冷蔵庫など、温度の低いところでは、発生・成長しないので、長く保存できる。

(4)ガのなかまが発生した時は、糸などでつづっている場合が多いので、できるだけ早く発見し、処理する。

(5)熱湯による消毒、加熱・乾燥、洗って日光にさらすなどは、物によっては効果があるが、虫の糞や虫体を取り除くことはできない。

(6)薬剤による燻蒸は、一般には難しく、業者に頼まざるをえない。

(7)タバコシバンムシなど、数種の害虫では、フェロモントラップが市販されており、合成フェロモントラップもある。

7 チャタテムシ類—湿度が高く、カビが生

えやすいところに発生することが多いので、清掃や通風に気をつける。押入れや容器内では、防虫剤も効果的である。

8 ハエ類—生ゴミなどの早急な処理、適切な管理で、発生する場所を無くする。畜舎やくみ取り便所、便池などは有機リン系の乳剤などを散布して幼虫を殺す。また、イエバエの集まる天井などに、残留性の薬剤を吹き付ける。

9 シミ類・シバンムシ類—一本などは、できるだけ密閉型の書棚に入れ、防虫剤を入れる。湿気の多いところでは、虫干しや乾燥に気をつける。多数の虫が発生した時は、燻蒸が必要。畳なども、定期的に日に干したり、風を通す。

10 ヒトジラミー頭の場合は、洗髪をひんぱんに行って、すきぐしで髪の毛を取る。

Ⅵ 防除法

- 1 シロアリ類－羽アリが出る時期に気をつけ、発生場所もつきとめる。特にイエシロアリの羽アリは、夕方に出て電灯に集まるので、見つけやすい。薬剤による防除は、専門の業者にまかせた方がよい。
- 2 ヒラタキクイムシ類－家具や建物の材に小さな穴があき、そこから木の粉が出て下にたまっている時は、穴から低毒性の有機リン剤（油剤）を注入する。また、家具を購入する時、防虫加工をしてあるか確かめる。
- 3 ナガシクイムシ類－竹や籐（とう）の製品に被害が多いので、購入前に業者に燻蒸が済んでいるか確かめる。被害が出てからも、毒ガスによる燻蒸が有効であるが、有機リン剤の注入も効果がある。
- 4 衣類を害するイガ類・カツオブシムシ類－衣類はタンスやふたのある箱にきっちり入れ、ナフタリンやパラジクロールベンゾールなどの防虫剤を入れると効果的。また、ドライクリーニングや虫干しで予防する。被害が出たら、有機リン系の殺虫剤をかけたり、燻蒸して殺す。
- 5 ゴキブリ類－台所の清潔・整頓に気をつけ、生ゴミの始末をきちんとする。かくれ場所や、よく通るところにゴキブリ用の有機リン系の殺虫剤をぬったり、エアゾールを吹きつける。毒エサや捕集用のトラップも効果がある。
- 6 食品を害する甲虫類・ガ類
 - (1)なるべく新しい日付の食品を購入し、長く保存せず、できるだけ早く使い切る。
 - (2)保存の時は、カンやビンなど、ふたのき

22 ノミ類

日本からは80種ほどが知られ、その内人の血を吸うのは、ヒトノミ（ヒト，イヌ，ネコ，ブタ，キツネ，アナグマなどにつく），ケオプスネズミノミ（主にドブネズミ，クマネズミにつく），イヌノミ（イヌ，ネコにつく），ネコノミ（イヌ，ネコにつく）の4種である。オスもメスも吸血する。成虫も羽がなく，平たくて毛の間やすき間にもぐりこみやすい。強いジャンプ力があり，30cm以上の高さ（体の約200倍）まではねる。幼虫は細長く，目や足を持たないウジ状。かっぱつに運動し，ゴミや有機物を食べる。ヒトノミやネコノミの幼虫は，畳の下や継ぎ目，じゅうたんの下のゴミの中にある。イヌノミでは，犬小屋のゴミの中や床下にすむ。ケオプスネズミノミはペストの媒介者だが，現在では心配はない。

23 アリガタバチ類

甲虫類の幼虫に寄生するハチで，ふつうメス成虫には羽がなく，よく人をさす。さされると，はれて，いたみやかゆみが数日続き，なおるのに約10日かかる。シバンムシアリガタバチの幼虫はタバコシバンムシなどシバンムシ類の幼虫に寄生する。卵から成虫までに約20日かかる。年間5回発生，夏に多い。クロアリガタバチは，シバンムシ類やチビタケナガシンクイ，カミキリ類の幼虫に寄生する。

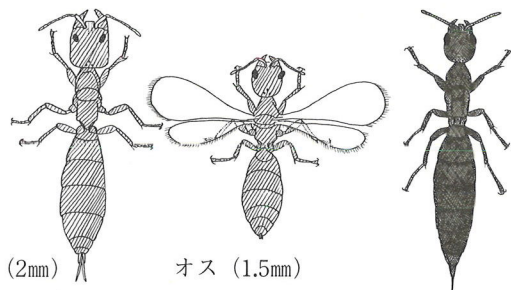


図44：シバンムシアリガタバチの成虫（赤褐色）

図45：クロアリガタバチのメス（2.5mm）。

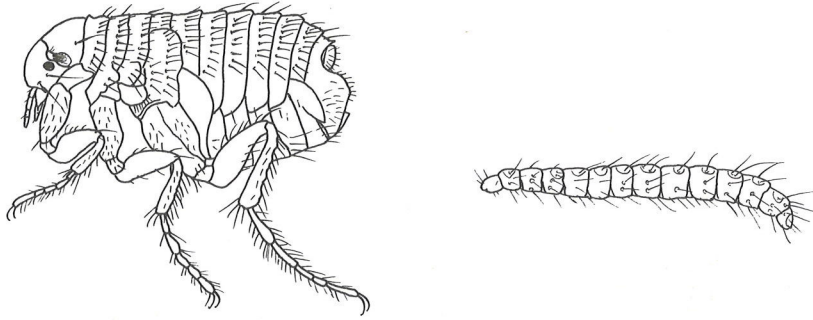
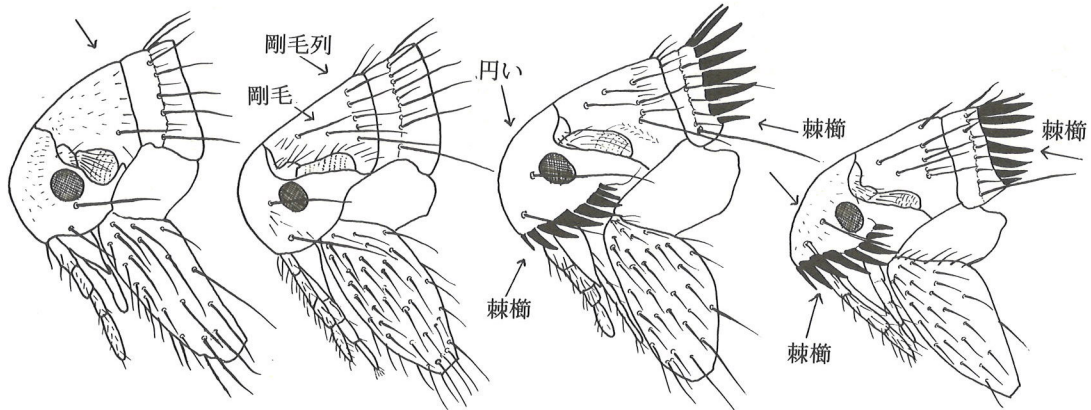


図42：ヒトノミの成虫（1.5-4mm）と幼虫。



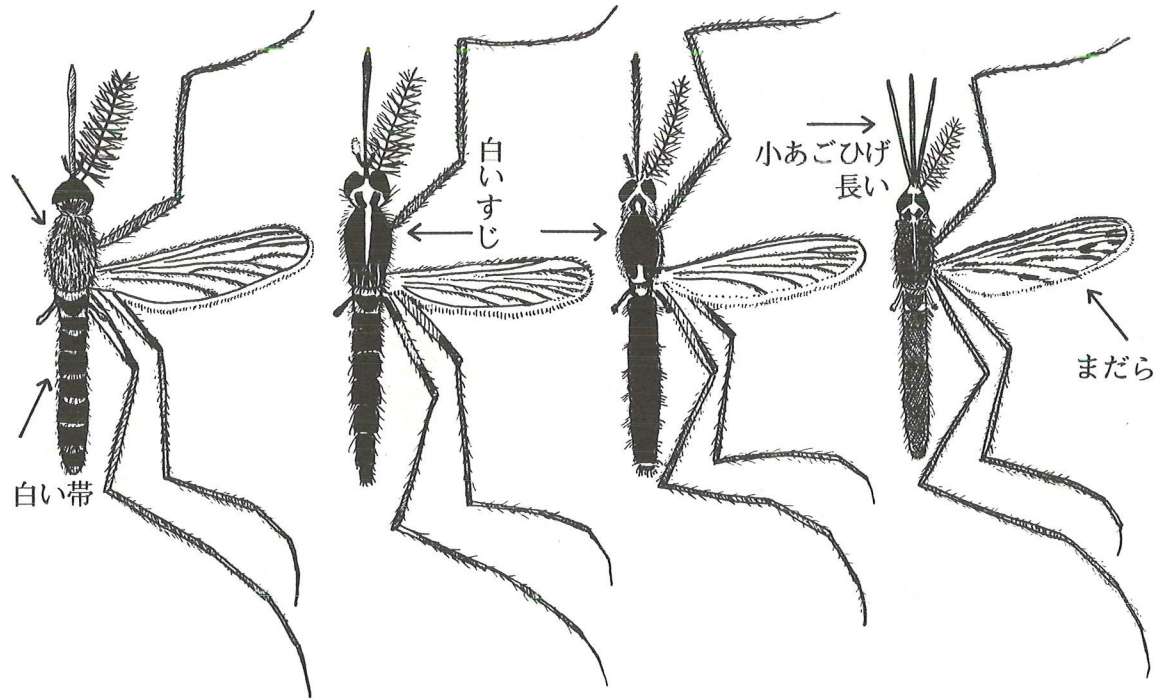
ヒトノミ (2-4mm)

ケオプスネズミノミ (1.5-2mm)

イヌノミ (2-4mm)

ネコノミ (1.5-3.5mm)

図43：ノミ類の頭部側面。



アカイエカ (5.5mm)

ヒトスジシマカ (4.5mm)

オオクロヤブカ (7.5mm)

シナハマダラカ (5.5mm)

図41：カ類.

21 カ類

血を吸う昆虫の代表。口が長くストローのようのにびて口吻になっており、皮ふにさしこんで吸う。給血するのはメスだけで、オスは植物の汁などを吸う。

日本には100種近くがいるが、人がひどくさされるのは、かなり限られる。主なものは、イエカ類（アカイエカ、チカイエカ、コガタアカイエカ）、ヤブカ類（ヒトスジシマカ、トウゴウヤブカ）、クロヤブカ類（オオクロヤブカ）、ハマダラカ類（シナハマダラカ）などである。以前は日本脳炎、マラリア、フィラリア、デング熱などの伝染病を媒介する重要害虫であったが、最近の日本では余り問題とはならない。

カの成虫の活動時間帯は種るいによってちがっており、イエカ類やハマダラカ類は主に

夜間、ヤブカ類は昼間、オオクロヤブカの吸血は夕刻に集中する。

幼虫はボウフラといわれ水中ですごす。汚水溜まりにはアカイエカやオオクロヤブカ、ビルの汚水槽や浄化槽にはチカイエカ、水田にはコガタアカイエカ、シナハマダラカ、墓の水受けにはヒトスジシマカがよくいる。3回脱皮して蛹になる。夏の気温の高い時期では、卵が産まれてから成虫が羽化するまで、およそ2週間くらいしか、かからない。成虫は、1か月くらい生きるが、成虫越冬する種（シナハマダラカなど）では、数か月生きる。

シナハマダラカは、他のカ類とはちがって、吸血や静止時に、腹の先をななめに上げた、独特の止まり方をする。カにさされてかゆいのは、カの口から出される唾液中の毒成分に、アレルギー反応を起こすためである。

トコジラミはナンキンムシ（南京虫）ともいわれ、カメムシのなかまで、油くさいいやなおいを出す。体はひらべったく、羽がないので、はいまわるだけだが、動きはひじょうに早い。昼間は壁のすき間、柱のさげ目、床板の間、ベッドの中などにかくれていて、夜出てきて寝ている人の首すじや手などの血を吸う。さされた時は、かゆくもいたくもないが、後でひどくかゆくなる。さしあとは、並んで2つ残るのが特徴である。吸血すると、平たい体がふくらんで、ちょうちんのようなになる。成虫は長生きで、一年くらい生きるといわれ、メスはかくれがに1日数個産卵する。

シラミ類と同様、第2次世界大戦後はいなくなりましたが、最近では都会で被害が増えている。日本に昔からいた昆虫ではないが、江戸時代の終わりごろ、海外から日本へ侵入して

土着したといわれている。世界中に分布しているが、熱帯地方には近縁のタイワントコジラミ（別名ネッタイトコジラミ）が知られている。

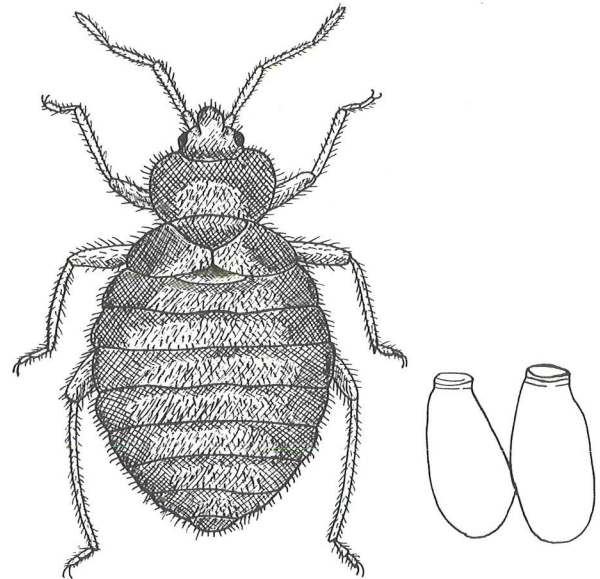


図40：トコジラミの成虫（赤褐色、5-8mm）と卵。

V 血を吸う虫、さす虫

20 シラミ類・トコジラミ

ヒトジラミは下着にひそみ、一日に5～6回吸血する。頭の毛につき、頭の血を吸うシ

ラミは、以前はアタマジラミとよばれ、別亜種とされたが、今は同じに扱われている。ケジラミは陰毛部につき、付近を吸血する。いずれも第2次世界大戦後ほとんどいなくなったが、最近はまだ増えてきた。

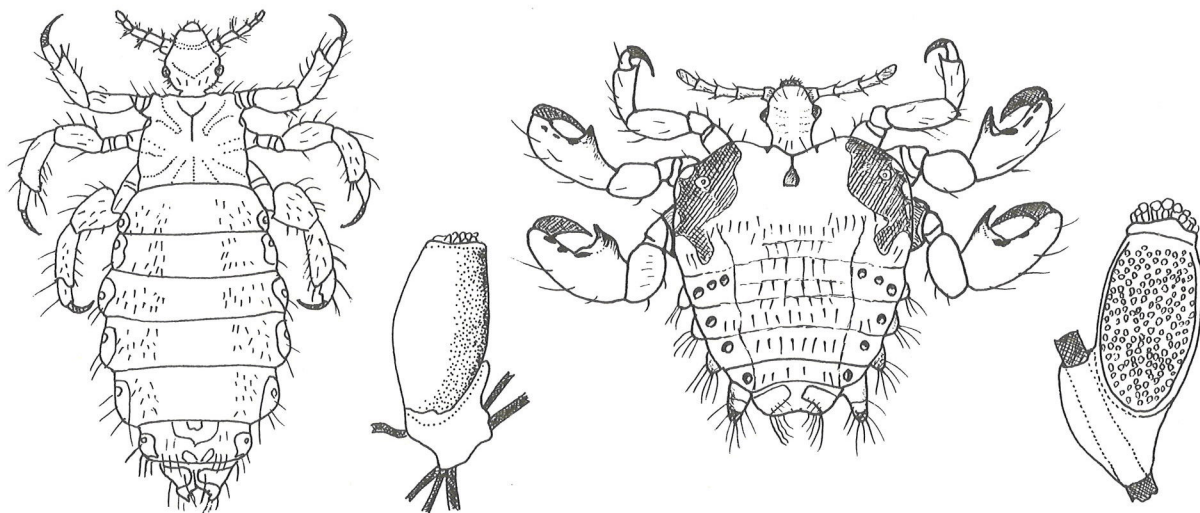


図38：ヒトジラミの成虫（灰白色，2.3-3.3mm）と卵（白色，0.5mm）。

図39：ケジラミの成虫（1.3-1.5mm）と卵。

19 シバンムシ類

フルホンシバンムシは、本に穴をあけて中を食害していく。本を害するシバンムシ類には、他にザウテルシバンムシやケブカシバン

ムシがある。クシヒゲシバンムシは、畳の表を食害する。年1回の発生、8月を中心に、2～3か月見られるが、近年は減った。それにかわって、タバコシバンムシが食害する。

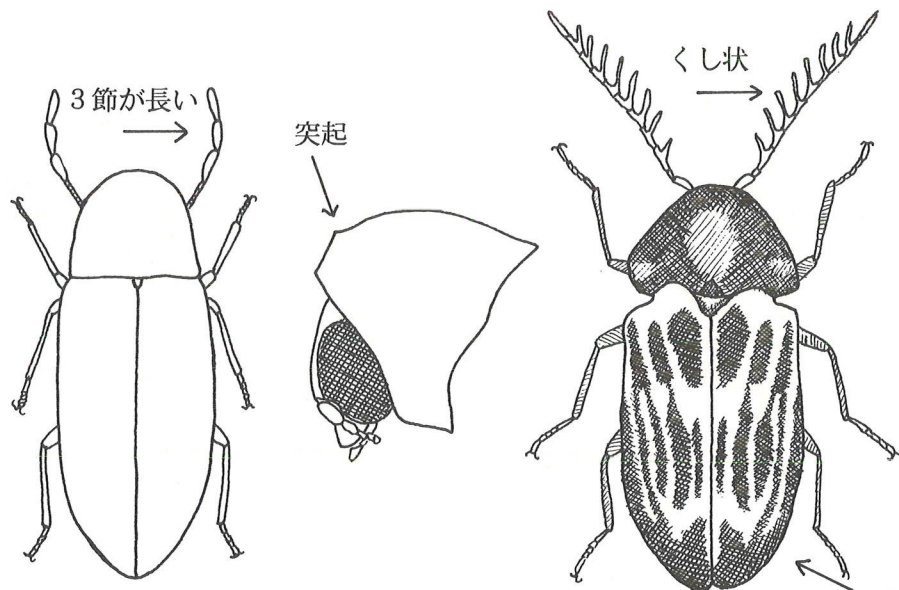


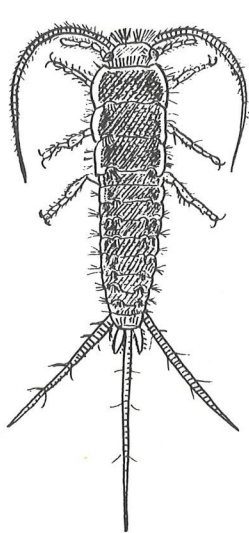
図37：フルホンシバンムシ（右は前胸側面，赤褐色，3mm）とクシヒゲシバンムシ（黒褐色，2.5-3.5mm）。

IV 紙や本、畳を害する虫

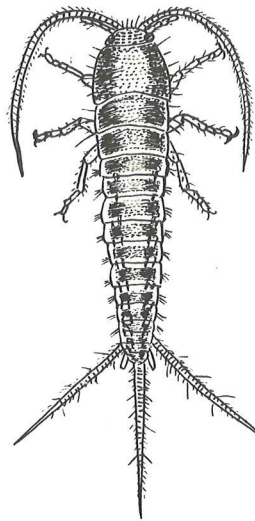
18 シミ類

1 cmくらいで羽がなく、鱗片でおおわれていて、銀色に光る。本のノリをかじったり、

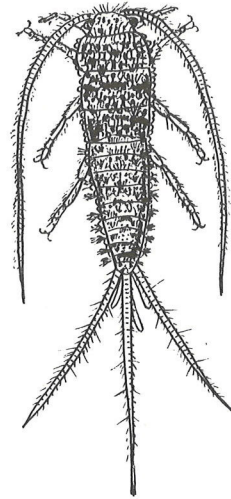
小麦粉やパンも食害し、衣類も害するという。古くはヤマトシミが普通だったが、最近では外来種のセイヨウシミとマダラシミが増えている。セイヨウシミはヤマトシミより腹部が長く、マダラシミは体がまだら模様で分かる。



ヤマトシミ (銀白色, 8-9 mm)

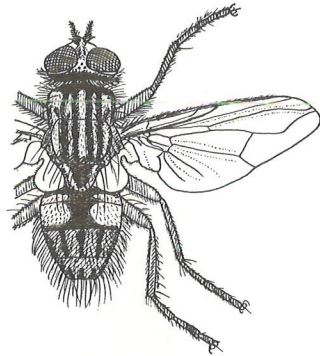


セイヨウシミ (鉛黒色, 8-9mm)

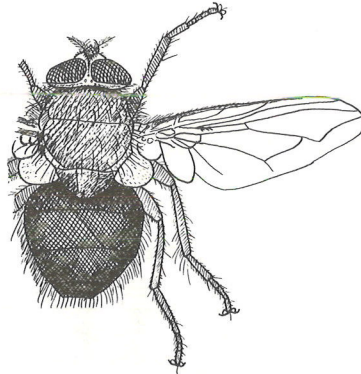


マダラシミ (8.5-11mm)

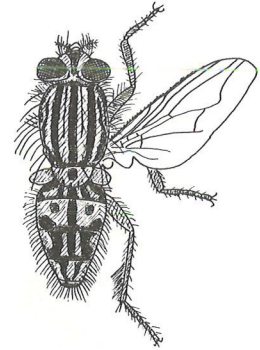
図36: シミ類.



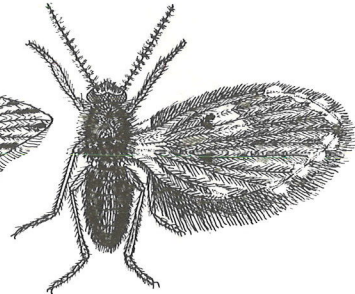
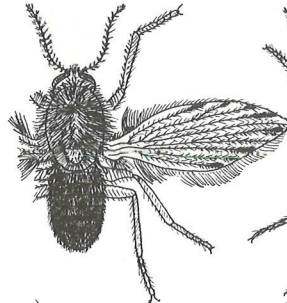
イエバエの成虫 (4-8mm) と幼虫



オオクロバエ (9-13mm)



センチニクバエ (8-14mm)



キイロショウジョウバエ(2mm) オオキモンノミバエ(1-2mm) ホシショウバエ(1-2mm) オオショウバエ(4mm)

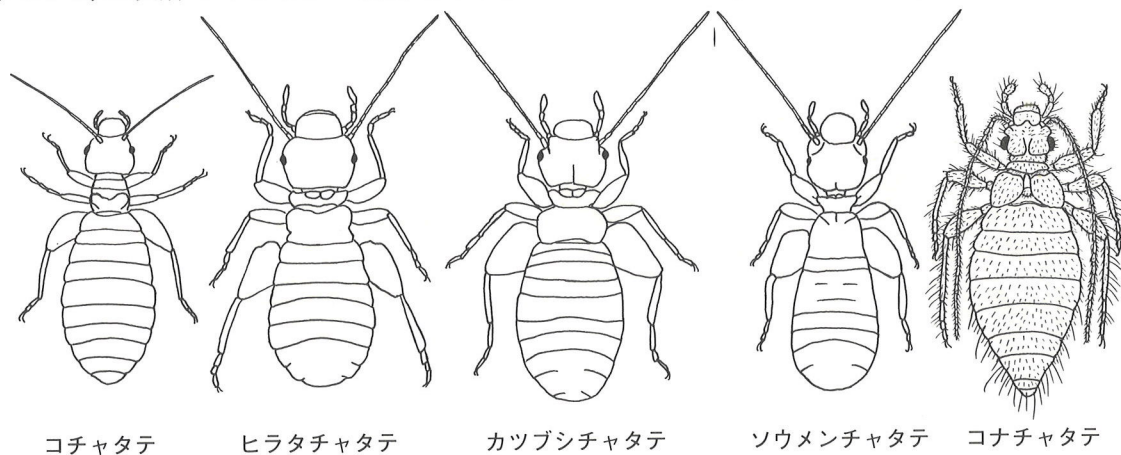
図35：ハエ類.

16 チャタテムシ類

屋内のは1.5mm以下の小さな種で、無翅型が多い。コチャタテ科のコチャタテ，コナチャタテ科のヒラタチャタテ，カツブシチャタテ，ソウメンチャタテ，コナチャタテなどがある。食器棚や本棚，畳や壁にいて，発生したカビなどを食べる。乾燥食品や標本なども食害する。時に皮膚のやわらかい部分をかむ。

17 ハエ類

イエバエ類は，デンプン質の食べ物や牛乳によくたかり，ゴミや家畜小屋，堆肥などで発生。クロバエやニクバエ類は，肉類にたかり，くみ取り式便所，動物の糞や死体に発生。ショウジョウバエ類は酒類に集まり，熟した果物や，ヌカ味噌で発生。台所や風呂，小便槽などでは，チョウバエやノミバエ類が発生。



コチャタテ

ヒラタチャタテ

カツブシチャタテ

ソウメンチャタテ

コナチャタテ

図34：チャタテムシ類（褐色，1.5 mm以下）。

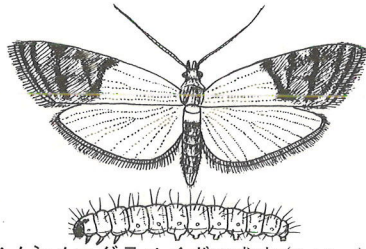


図27:ノシメマダラメイガの成虫(6-10mm)
と幼虫(黄緑色, 8-10mm).

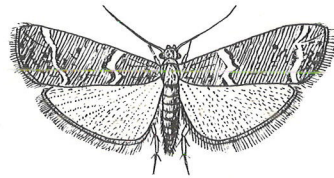


図28:スジコナマダラメイガの成虫.

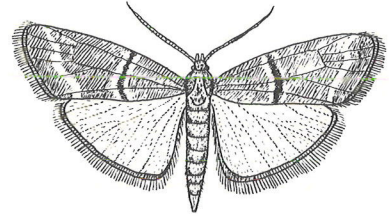
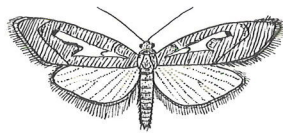
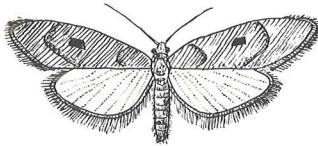


図29:スジマダラメイガの成虫
と幼虫(乳白色, 12mm).



オス



メス

図30:ツヅリガ(イッテンコクガ)の成虫(灰色, 10mm).



幼虫(黄白色, 12mm).

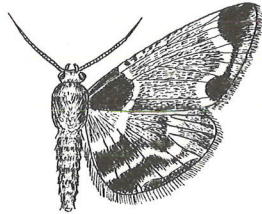


図31:カシノシマメイガの成虫.

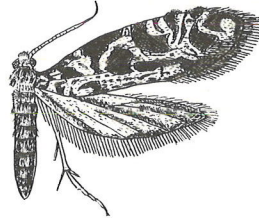


図32:コクガの成虫.

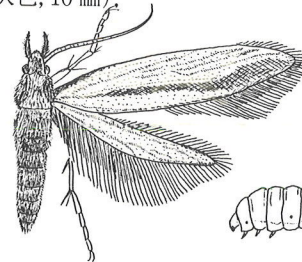


図33:バクガの成虫と幼虫.

14 メイガ類

屋内の穀類，粉類，菓子類を害するメイガ科のガで，世界的に分布を広げている種が多く，有名なものだけでも10種近くになる．マダラメイガ類（ノシメマダラメイガ，スジマダラメイガ，スジコナマダラメイガ），ツヅリガ類（ツヅリガ），シマメイガ類（コメノシマメイガ，カシノシマメイガ）などが重要である．年3～4回出るものが多い．

ノシメマダラメイガ（ノシメコクガともいう）は特に加害する食品の種類が多く，穀類をはじめ，小麦粉などの穀粉，乾燥した果実や野菜，ナッツや木の実，鳥の餌，菓子類，チョコレートなど，あらゆる食品から見つかり，デパートやスーパーマーケットなどへ，よく消費者の苦情が寄せられる．

15 ヒロズコガ類・キバガ類

ヒロズコガ類ではコクガが代表で，乾燥植物質のものを何でも食害する．乾燥シイタケや，時にはワインのコルク栓なども食害することがある．年2回の発生．世界中に分布している．成虫は開張 9-14mmと小さく，前翅は灰色に不規則な黒褐色の斑紋がちらばっている．

キバガ類の代表はバクガで，貯蔵中のムギ類を害する．世界中に分布している．暖地では，年5～6回発生する（初夏～晩秋）．成虫は野外の麦の穂や，イネ科の雑草の穂にも産卵して，幼虫が食害する．貯穀類だけでも増殖するので，野外と屋内の両方にわたって害虫となるわけである．成虫は灰褐色で，開張約13mm，幼虫は黄白色で，約8mm．

13 マメゾウムシ類

貯蔵した豆類の害虫。完熟した豆だけで生活をくりかえすことができる屋内型（ヨツモンマメゾウムシ、アズキゾウムシなど）と、未熟な豆に産卵して育つ野外型（エンドウゾウムシ、ソラマメゾウムシ）がある。

ヨツモンマメゾウムシは、アズキ、ササゲ、リョクトウなどの貯蔵豆を食害する。

アズキゾウムシは、貯蔵アズキの最大の害虫である。

エンドウゾウムシは、幼虫は畑で豆がまださやの中にある間に加害する。成虫は、貯蔵虫の豆に穴をあけて羽化してくる。

ソラマメゾウムシも幼虫は畑で育つが、成虫は貯蔵豆から羽化する。

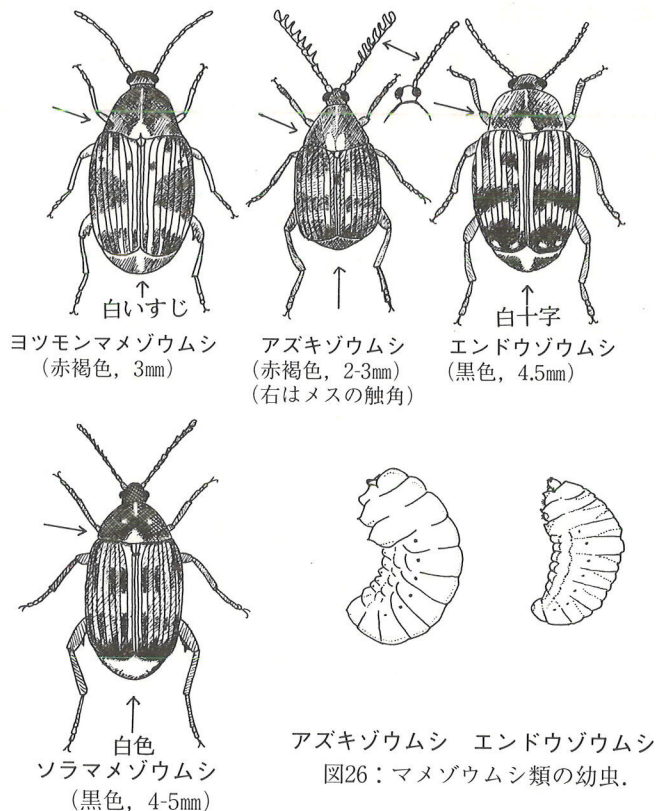


図25：マメゾウムシ類。

アズキゾウムシ エンドウゾウムシ
図26：マメゾウムシ類の幼虫。

12 ヒョウホンムシ類

動植物の乾燥標本，干し魚などの乾燥食品を食害する小さな甲虫のなかまで，卵形またはヒョウタン型の独特の形をしており，足や触角が長い。

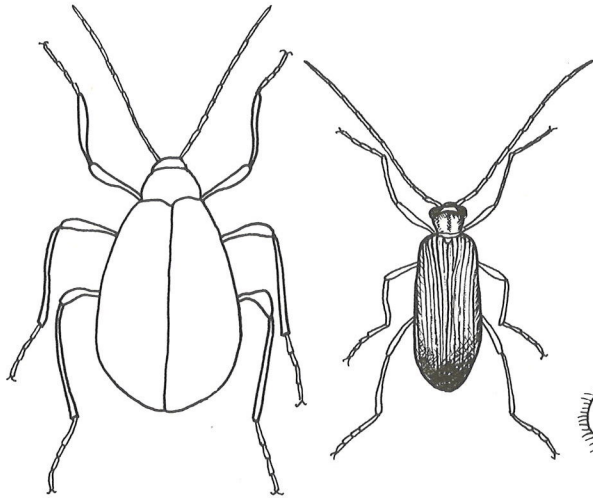
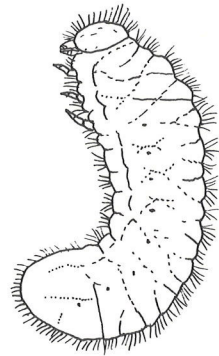


図23：ニセセマルヒョウホンムシ（赤褐色，2.5-3 mm）。

図24：ナガヒョウホンムシの成虫（黄褐色，2-4mm）と幼虫（乳白色，8mm）。



ニセセマルヒョウホンムシは1.9～3.0mm，光沢のある赤褐色．体の後方は卵形に強くもりあがり，独特のかっこうをしている．左右の上翅はくっついていて，後翅は退化して飛べない．

ナガヒョウホンムシは2.7～5.0 mm，オスは細長く黄褐色，メスは丸く濃褐色．年1～2回発生する．

家の中で見られるヒョウホンムシのなかまには，他にセマルヒョウホンムシ，カバイロヒョウホンムシ，ヒメヒョウホンムシなどがある．

表2：コクゾウムシとココクゾウムシのちがい

		コクゾウムシ	ココクゾウムシ
体長		2.3~3.5 mm (平均2.8 mm)	2.1~2.9 mm
体色		褐色~濃い褐色	うすい褐色~褐色
前胸背		前方にむかってせまくなる	両側はほぼ平行
上翅の黄色斑		大きく、りんかくは不明瞭	小さく、りんかくは明瞭
触角の第3節		幅よりも長い	長さと同幅

表3：タバコシバンムシとジンサンシバンムシのちがい

		タバコシバンムシ	ジンサンシバンムシ
体形		まるく、長卵型	細長く、まるくない
触角		のこぎり状で、各節は同じ長さ	先端の3節が長く大きい
前胸背		半円形	陣笠状、三角形にしている
上翅の縦のすじ		横からみると、上縁はほぼ垂直 ない	横からみると、上縁は前方に向かう はっきりしている

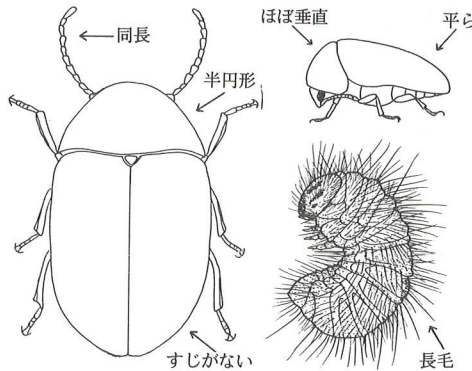


図21：タバコシバンムシの成虫（背面，側面）（赤褐色，2.5 mm）と幼虫（白色，3 mm）.

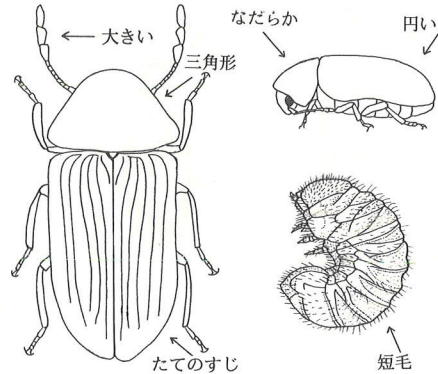


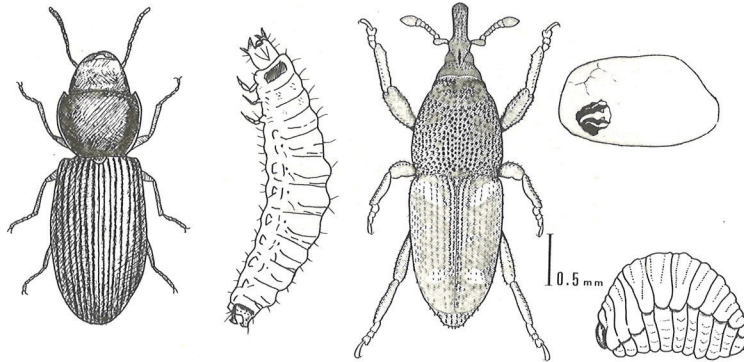
図22：ジンサンシバンムシの成虫（背面，側面）（赤褐色，2.5mm）と幼虫（白色，2.5mm）.

9 コクヌスト類

コクヌストだけが屋内にすみ、成虫・幼虫ともに穀類を食害するが、時に他の穀類の害虫を捕食することもある。年1化で、1世代に約90日かかる。幼虫か、成虫で越冬する。

10 コクゾウムシ類

コクゾウムシとココクゾウムシが知られ、



幼虫(灰白色, 15mm)

図19: コクヌストの成虫
(赤褐色, 6-10mm).

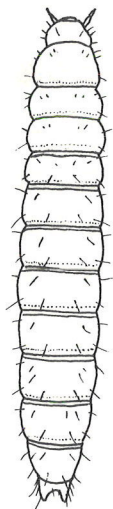
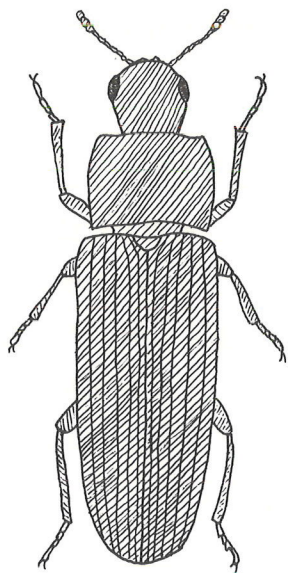
幼虫(乳白色, 1mm)

図20: コクゾウムシの成虫と食害を受けた米粒(金沢 至画).

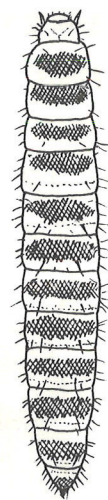
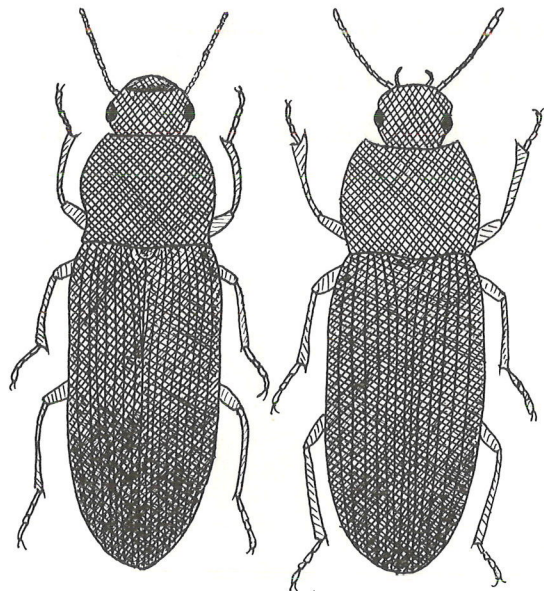
いずれもコメ、ムギ、トウモロコシなど穀物の重要害虫。世界中に分布している。いずれも年4回発生、一世代に約1か月かかる。

11 シバンムシ類

タバコシバンムシとジンサンシバンムシが代表的で、食品類をはじめ、乾燥した植物・動物なんでも食害するので、タバコ、漢方薬、飼料、標本など多くのものの害虫となっている。いずれも世界中に分布し、年2~3回発生、1世代に約2か月を要する。



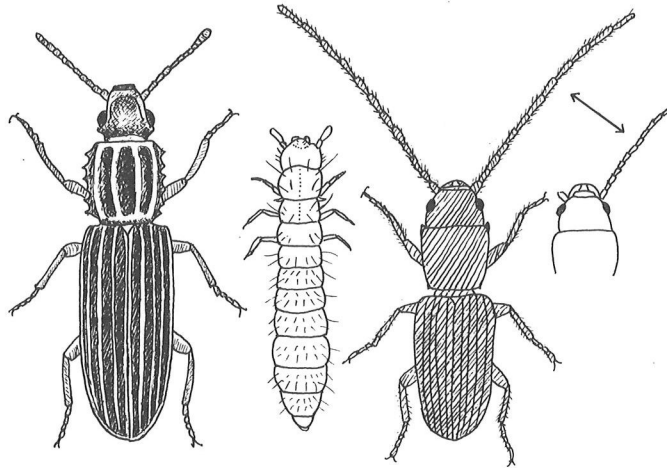
成虫
幼虫
(淡黄色, 6 mm)
図17: コクヌストモドキ.



コメノゴミムシダマシ チャイロコメノゴミムシダマシ ガイマイゴミムシダマシ
の幼虫
図18: ゴミムシダマシ類.

7 ヒラタムシ類

粉類や菓子類を食害するノコギリヒラタムシ，くだけた穀類を食害するカクムネヒラタムシが重要である。カクムネヒラタムシには，サビカクムネヒラタムシやトルコカクムネヒラタムシなど，数種よく似た種がいる。



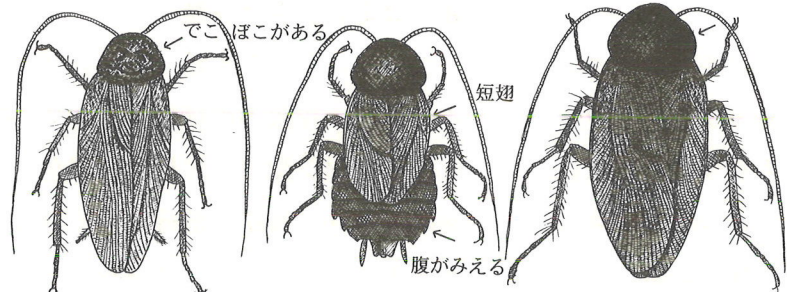
成虫(褐色, 3mm) 幼虫(黄褐色, 4-5mm)
図15: ノコギリヒラタムシ.

オス メスの触角 幼虫
(褐色, 2mm) (乳白色, 3mm)
図16: カクムネヒラタムシ.

8 ゴミムシダマシ類

コクヌストモドキ類は赤茶色で，体長3～4 mm前後，複眼の前縁はえぐれていない。ゴミムシダマシ類は，黒褐色～黒色で，体長10 mm以上あり，複眼の前縁はえぐれている（ガイマイゴミムシダマシは体長5～6 mm）。

いずれも，完全な米や麦の粒を食害するのではなく，小麦粉などの穀粉や，ぬか，砕けた穀類，加工した菓子やパン類などを食べる。チャイロコメノゴミムシダマシの幼虫（ミールワーム）は，小動物の飼育の餌に利用されることが多い。



オス (羽は長く、前胸背に凸凹) (羽が長く、前胸背に凸凹) (羽が長く、前胸背に凸凹)
 メス (羽が短く、腹部中央まで) (羽が短く、腹部中央まで) (羽が短く、腹部中央まで)
 図10: ヤマトゴキブリ (25-35mm). 図11: クロゴキブリのメス (25-35mm).

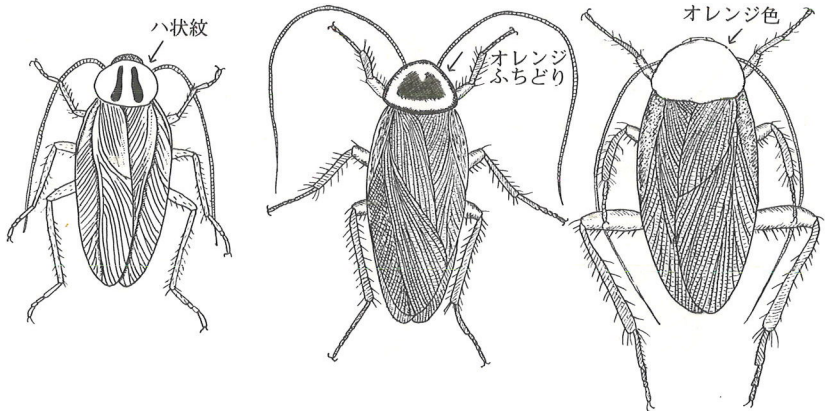


図12: チャバネゴキブリのメス. 図13: ワモンゴキブリのオス. 図14: トビイロゴキブリのメス
 (10-12mm) (30-45mm) (30-45mm)

★ゴキブリ類の分布

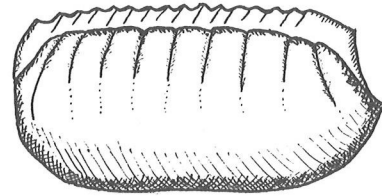
- (1) ヤマトゴキブリ
青森県以南～近畿・中国地方, 朝鮮・中国
- (2) クロゴキブリ
本州～奄美, 台湾, 中国, 北・南米
- (3) ワモンゴキブリと
- (4) トビイロゴキブリ
本州西南部～琉球列島, 世界共通種
- (5) キョウトゴキブリ
本州 (関東～近畿), 朝鮮, 中国
- (6) チャバネゴキブリ
日本全土, 世界共通種

Ⅲ 食品を害する虫

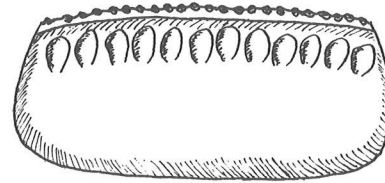
6 ゴキブリ類

日本には約50種のゴキブリが知られ、大部分の種は屋外性であるが、ヤマトゴキブリ、クロゴキブリ、ワモンゴキブリ、トビイロゴキブリ、キョウトゴキブリ、チャバネゴキブリなど6種ほどが、本土の屋内で害虫となっている。この内、ヤマトゴキブリ、クロゴキブリ、ワモンゴキブリ、キョウトゴキブリは、程度は異なるが屋外にもすむ。

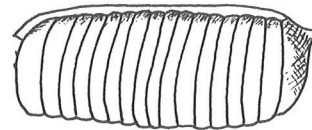
昨今の温暖化や、暖房の普及によって、屋内のゴキブリの種は増加の傾向にあり、分布も北方に延びる傾向があるが、逆にヤマトゴキブリのように、家の中ではあまり見られなくなった種もある。



ヤマトゴキブリ

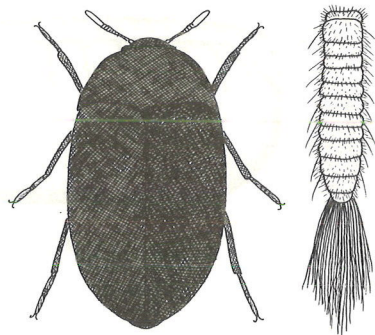


クロゴキブリ

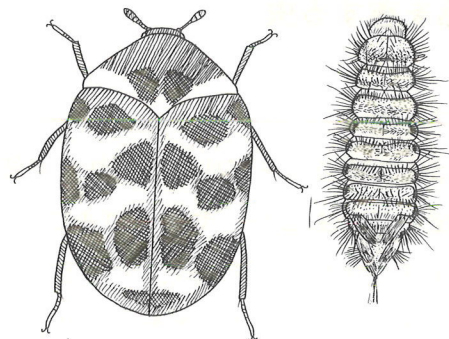


チャバネゴキブリ

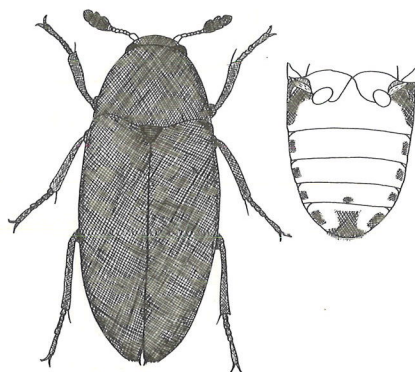
図9：ゴキブリの卵囊。



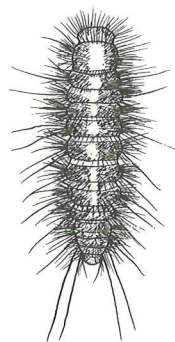
成虫(黒色, 3.5-4.5mm) 幼虫(赤褐色, 9mm)
 図6: ヒメカツオブシムシ。



成虫(黒色に灰黄色斑, 2-3mm) 幼虫(灰黄色, 4.5mm)
 図7: ヒメマルカツオブシムシ。



成虫(黒褐色, 9-10mm) 腹部腹面 幼虫(黒褐色, 10-15mm)
 図8: ハラジロカツオブシムシ。



II 衣類を害する虫

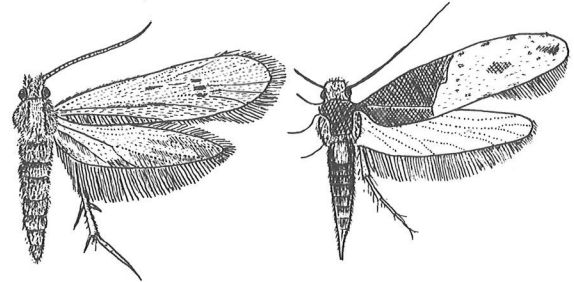
羊毛や毛皮製品、羽毛などの衣類や、ジュウタンなどを害する昆虫で、イガ類(ガ)、カツオブシムシ類(甲虫)がその代表である。

4 イガ類

衣類につくガという意味で、ヒロズコガ科に属し、わが国ではイガ・コイガ・ジュウタンガ(最近はほとんど見られない)がいる。イガの幼虫はツツ状の巣を作って中にひそみ、前後どちらからでも食害できる。成虫は年2回以上発生し、5月から10月と続く。コイガの幼虫の巣は不規則なツツ状、成虫は年3回以上の発生、春から秋まで続いて見られる。

5 カツオブシムシ類

動物性繊維の他に、乾魚や乾肉、昆虫標本や動物標本の害虫になるものが多い。ヒメカツオブシムシとヒメマルカツオブシムシは年1化で、幼虫越冬、5月ころから羽化する。ハラジロカツオブシムシは年3回の発生、主として成虫で越冬し、卵から成虫まで50日余りを要する。最近は、外国から食品などについて侵入し、帰化している種がいくつか見られる。

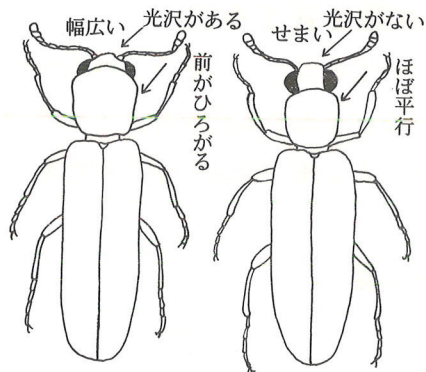


イガ (4.5 mm, うすい灰褐色) ジュウタンガ (4-5 mm)

図5：イガのなかま。

2 ヒラタキクイムシ類

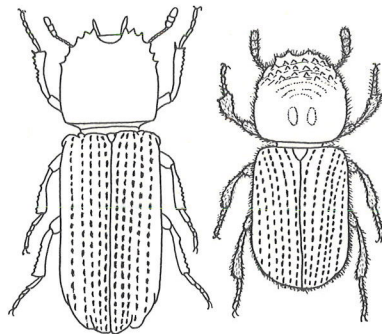
日本からは6種が知られ、ヒラタキクイムシ(主に西日本)とナラヒラタキクイムシ(主に東日本)が重要。ラワン・ナラをはじめ、多くの木材を害する。材の表面に直径2mmくらいの穴があき、その下に木の粉の山ができる。年1回の発生で、成虫は梅雨の頃を中心に羽化・産卵するが、春～秋と長期にわたる。



ヒラタキクイムシ ナラヒラタキクイムシ
図3：ヒラタキクイムシ類(赤褐色、2-7mm)。

3 ナガシクイムシ類

円筒形の小さな黒褐色の甲虫類で、頭は前胸にかくれて背面からは見えない。日本からは11種知られている。チビタケナガシクイは竹製品の重要害虫で、成虫は体長2.5~3.5mm、前胸背の前縁に歯のようなトゲ状突起がある。オオナガシクイは体長8.5~15.5mm、ラワン材を害し、直径5mmくらいの穴をあける。



オオナガシクイ チビタケナガシクイ
図4：ナガシクイムシ類。

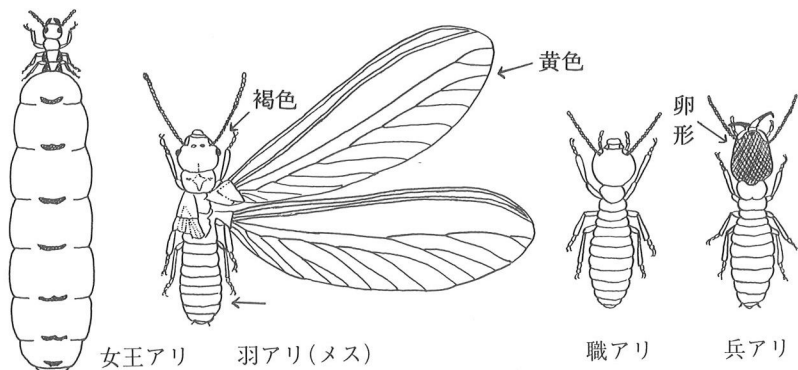


図1：イエシロアリ。

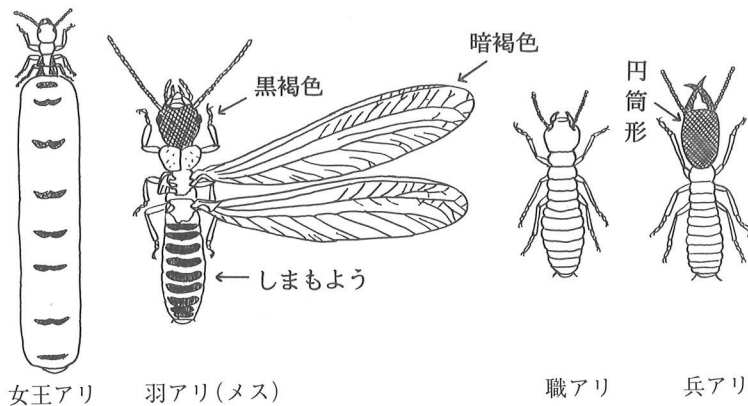


図2：ヤマトシロアリ。

★シロアリの羽アリとアリの羽アリのちがい

(1) シロアリの羽アリ
 触角はまっすぐ、各節は同じ長さで、じゅずのよう
 前羽と後羽は同じ大きさ
 前羽の脈は多く、あみめになっている

(2) アリの羽アリ

触角はくの字型、付け根はとても長い
 前羽は大きく、後羽は小さい

前羽の脈は少ない
 体は腹の基部でくびれる

I 家や家具を害する虫

家や家具の木材を害するのは、シロアリ類をはじめ、ヒラタキクイムシ類、ナガシクイムシ類などである。家の中で増えつづけることがあるので、注意を要する。

十分乾燥していない木材を使っていた場合、カミキリムシ類、クイムシ類などの成虫が出てくることがあるが、成虫になると屋外へ出てしまうので、どんどん増えることはない。

1 シロアリ類

日本には4科17種が知られているが、大部分は屋外性で、屋内性ではイエシロアリ（神奈川県～九州）の被害が最も大きく、ヤマトシロアリ（北海道～沖縄）、ダイコクシロアリ

（奄美大島以南、小笠原）、アメリカカンザイシロアリ（北アメリカから1976年ころ帰化、近畿～東海）などが知られる。

表1：イエシロアリとヤマトシロアリのちがひ

	イエシロアリ	ヤマトシロアリ
羽アリ	体長7.4～9.7mm 6～7月の夜出て 灯火に集まる	体長4.5～7.5mm 4～5月の昼間出る
兵アリ	体長3.8～6.5mm 頭部は卵形で体の 1/3	体長3.5～6.0mm 頭部は円筒形で体の 1/2
巣の中の数	約50～100万匹	約1～3万匹
巣	王台を中心に小室が 同心円状にある 巣は大きく整然とし ている	王台がなく巣は小さ い 加害部の一部が巣を かねる
蟻道	清潔で水を運ぶ蟻道 がある	不潔で水を運ぶ蟻道 はない
被害	湿った材・乾燥材の 両方を害する	湿った木材を好む

はじめに

家の中には、おどろくほどたくさんの虫がすんでいます。それらには、食品の害虫、衣類の害虫、また建物や家具の害虫といったものが、多く含まれています。また、カヤノミのように、人の血を吸って生きている虫や、うっかりさされたら、数日はれがひかないアリガタバチのような、衛生害虫といわれる虫もいます。近代的なマンションなどになって、住宅のようすが変わり、減った虫もありますが、暖かく湿度も高いので、ゴキブリ類のように、種類が増えたり、住み場所を広げている虫もいます。人間にとって快適で住み心地が良い環境は、虫にとっても生活しやすい場所なのです。

この本では、これら家の中の衣・食・住の

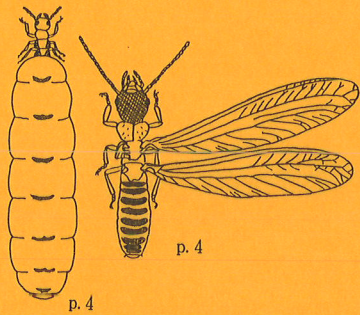
害虫や、人に害を与える虫について、その主なものを図示し、見分け方や生活ぶりを解説しました。彼らは昔から人間と密接に生活してきただけに、人とのつきあいも長く、最も身近な昆虫といえるでしょう。この隣人たちを徹底的に憎み嫌う人も多いでしょうが、いろいろ観察の対象にもなるでしょう。彼らのことをよく知り、これからのつきあい方を考えていかねばなりません。

家の中には、ガやハチ、カメムシなど、いろいろな虫が飛びこんできます。この頃では、住宅が郊外や山手へのびているので、なおさらです。また、昆虫ではありませんが、クモ、ダニ、ムカデ、ヤスデなど、一般には虫の仲間に入れられる動物も、家の中へ入ってきます。これらについては、ページ数の関係や著者の専門外なので、入れられませんでした。

目 次

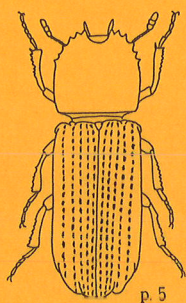
はじめに	2
I 家や家具を害する虫	3
1 シロアリ類	3
2 ヒラタキクイムシ類	5
3 ナガシンクイムシ類	5
II 衣類を害する虫	6
4 イガ類	6
5 カツオブシムシ類	6
III 食品を害する虫	8
6 ゴキブリ類	8
7 ヒラタムシ類	10
8 ゴミムシダマシ類	10
9 コクヌスト類	12
10 コクゾウムシ類	12
11 シバンムシ類	12

12 ヒョウホンムシ類	14
13 マメゾウムシ類	15
14 メイガ類	16
15 ヒロズコガ類・キバガ類	16
16 チャタテムシ類	18
17 ハエ類	18
IV 紙や本、畳を害する虫	20
18 シミ類	20
19 シバンムシ類	21
V 血を吸う虫、さす虫	22
20 シラミ類・トコジラミ	22
21 カ類	24
22 ノミ類	26
23 アリガタバチ類	27
VI 防除法	28
虫の種名の索引	31
参考にした本	33

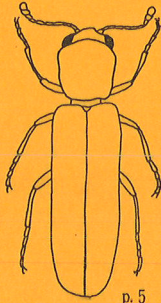


p. 4

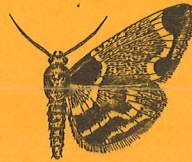
p. 4



p. 5



p. 5



p. 17



p. 19



p. 19



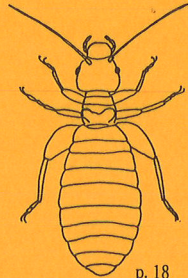
p. 11



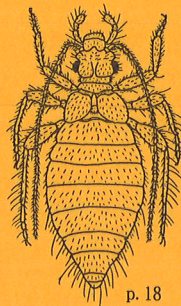
p. 9



p. 20



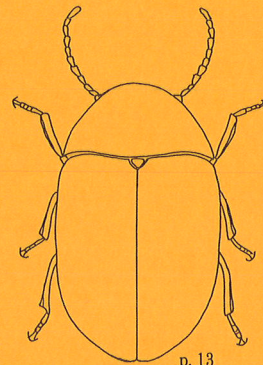
p. 18



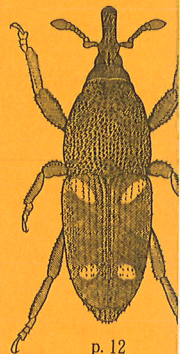
p. 18



p. 21



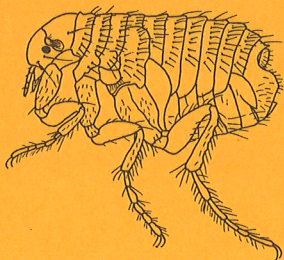
p. 13



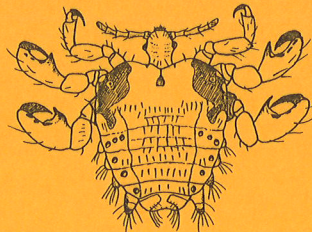
p. 12



p. 23



p. 26



p. 22



p. 25



p. 25



p. 27